令和元年度　第１回宇都宮市行政改革大綱策定懇談会　会議記録

■　日　　時　　令和元年６月５日（水）午後３時３０分～５時００分

■　場　　所　　宇都宮市役所１４Ａ会議室（本庁舎１４階）

■　出 席 者

１　委員

阿久津委員，入江委員，臼井委員，大澤委員，太田委員，小栗委員，神林委員，木村委員，児玉委員，坂本委員，仙波委員，中村委員，丹羽委員，畠山委員，檜原委員，藤井委員，古澤委員（五十音順）

※　欠席：岩井委員，大島委員，片山委員

２　事務局

行政経営部長，行政経営部次長，行政改革課長，行政改革課課長補佐，行政改革課係長，行政改革課担当者

■　会議経過

１　開会

２　市長あいさつ

市長

・　今回，「行政改革大綱策定懇談会」の委員をお引き受けいただき，また，御多用のところ，会議への御出席を賜り，感謝申し上げる。

・　本市においては，平成７年以降，５次にわたる行政改革大綱に基づき，全庁を挙げた行政改革に取り組んできたところであるが，人口減少をはじめ，「人生１００年時代」の到来やＩＣＴの飛躍的な発展など，社会環境は大きく変化している。

・　先立って平成が幕を閉じたところであり，思い返せば昭和の時代には，日本が輝いており，多くの国民が夢や希望を持っていたが，平成の初めにバブルが崩壊し，その後の３０年は，若い世代が夢や希望を持ちにくく，明るさに欠けていたようにも思える。さらに今後は，人口が減少していく中，社会を支えていく次の世代の苦労は大変なものであると思うところであり，特に，社会保障の維持において，若い世代に負担をかけることは必須であることから，将来を見据え，次の世代が支えやすい社会をつくっていく必要がある。

・　本市においては，若い世代が夢や希望を持ち，それを実現できる社会の実現を支えることのできる，足腰のしっかりした市役所をつくりあげたいと考えるところであり，このような観点から，ただ「絞る」のではなく，将来を見据えた行政改革を断行してまいりたく，委員の皆様には新たな大綱の策定に向けて御協力を賜るよう，お願いしたい。

３　委員紹介

４　会長，副会長の選出（資料１）

要綱の規定に基づき，委員の互選により，中村会長，坂本副会長を選出

（会長あいさつ）

・　先ほどの市長のあいさつの中で「絞るだけではなく」との御発言があったが，まったく同感であり，以前は，「削減」や「縮小」などのネガティブな論調で行政改革が語られることが多かったように感じているが，現在は，社会が変化していく中で，行政に何が求められているか，何を担うべきかを議論する時期にあるように感じている。

・　今回の懇談会には，若い方から経験豊富な方まで幅広く御参画いただいていることから，全員で知恵を出し合いながら議論が進められるよう努めていきたいと考えているので，よろしくお願いしたい。

（副会長あいさつ）

・　私は，今回初めての参加となるが，先ほど市長並びに会長がおっしゃった「絞るだけではなく」という考えには同感であり，幅広く議論を進めていければと考えている。

・　微力ではあるが，会長を支えていきたいと思っているので，委員の皆様の御協力をお願いしたい。

５　議事

⑴　行政改革大綱策定懇談会の進め方について（資料２）

（意見，質疑なし）

⑵　「（仮称）第６次行政改革大綱」の策定に向けた課題等の整理について（資料３）

委員

・　今後の行政改革においては，「人」がキーワードになっていくように感じる。今後，人口が減少し，さらにＩＣＴも発展していく中で，改めて「人」が持つ力や価値に焦点が当たっていくのではないか。

・　また，「外国人」も一つのキーワードになると考えるところであり，長期的な視点から，まちづくりの新たな活力として議論していくことも考えられるのではないか。

委員

・　これまでの行政改革は，非効率なものを探し出して見直し，時には，効率化によって痛みを伴うような場面もあったように考える。これからの行政改革では，携わる人が幸せを感じられるような効率化が進められるとよい。

・　例えば，ＩＣＴの利活用が挙げられる。市職員の数をこれ以上削減することはおそらく難しいが，ＩＣＴを効果的に活用することで，時間外労働を削減することはできるはずであり，初期投資を考慮しても，長期的に見れば，総人件費の削減や職員のワークライフバランスに寄与できるものと考える。

委員

・　今後の少子・高齢社会がどのような社会になるか，今の時点である程度は想像できるが，今後の社会変化によっては，さらに不透明さが増すことも考えられるところであり，そのような中では，市民の潜在的な活用を引き出す，すなわち，女性が活躍できる，若者が輝くことができる社会を目指すことが，より重要になってくるのではないか。

・　特に，人口の半分は女性であるが，当懇談会の女性委員は２名にとどまっており，女性の観点が十分でないように感じる。今後の行政経営においては，「女性の活躍」に改めて焦点を当ててもよいのではないか。

委員

・　新たな大綱の計画期間は５年間とのことであるが，５年程度の間に人口減少によって顕在化してくる社会変化は限られているため，大綱策定に当たっては，１０年，１５年先の社会を見据えていかなければならないように感じる。

会長

・　昨今，社会変化のスピードが非常に速くなっていることから，計画期間の設定には難しさがあるかもしれない。

委員

・　外国人材の話が出たが，災害発生時など，言語の面で市内に居住している外国人に対応できるのかという課題もあり，急速に進む他言語化，グローバル化にＩＣＴを活用して対応していくことも求められてくるのではないか。

委員

・　現在の大綱では，「みんなでまちづくり」などの市民の目線でわかりやすいキーワードが用いられていたが，今回は「公民連携」という文言が用いられていることに懸念がある。大綱は，市役所内部ばかりではなく，市民に向けたものでもあることから，市民にわかりやすい文言を意識して用いた方がよい。

委員

・　今の意見に関連するが，今後の行政経営においては，「市民が主導するまちづくり」が必要になってくるものと考える。そのためには，世代を問わず，老若男女に行政に対して関心を持ってもらうという観点も，重要になってくる。

委員

・　「公民連携」や「市民協働」といった言葉が出てきたが，資料２ページ上部の図にあるように，これまでの行政改革の取組は，組織内で完結するものが中心であったが，これからは市役所だけではなく，市民や企業といった多様な主体と課題認識を共有しながら取り組んでいくことがより求められてくる。

・　そのような中，「公民連携」，「市民協働」という文言には，一種の「あいまいさ」がある。「公民連携」は，いわゆる広義の「ＰＰＰ（Public Private Partnership)」，すなわち企業･事業者との連携が中心であるイメージがあり，一方，「市民協働」は，自治会やＮＰＯなどとの連携が中心であるイメージがあるが，これらを論ずるに当たっては，その範囲や対象を共有できるかということもポイントの一つである。

・　広く民間との連携を進めていく上では，例えば，「契約」の形態をとることなども含め,その履行をいかに担保していくかということも考える必要があり，併せて議論していくことが求められるだろう。

委員

・　資料に記載されている内容についてはそのとおりであると思うが，今回の会議でどのような意見が求められているのか，議論の論点がわかりにくい。

会長

・　事務局としてのこれまでの取組の評価や考えられる方向性を資料にとりまとめたところであり，これらに対して，新たな視点の提案や認識の齟齬などの御意見が考えられる。

委員

・　これまでの行政改革で扱ってこなかった新しい分野について，この懇談会で議論することも一つの進め方であるとは思うが，行政の範ちゅうは非常に広く，一つのキーワードでは言い表せない。

・　それぞれの委員の思いは様々であり，一つにまとめることは難しいと思う。

委員

・　現在の大綱では，「市民活力の最大化」という文言が用いられているが，これを一市民としてどのようにとらえたらよいか，難しさがある。例えば，うつのみやの魅力を発展・発信していくためにはどうしたらよいかなど，議論のポイントについて共通の認識があれば意見も出しやすい。

委員

・　例えば，削るばかりの行政改革でよいのか，今後の検討において足りない視点はないか，論点を絞って各委員から意見をいただく機会を設けてもよいかもしれない。

・　事務局としては，会議の進め方や開催回数など，多少の変更は可能か。

事務局

・　可能な限り対応する。

委員

・　参考に，これまでの行政改革推進懇談会で，どのような意見があったか，示してほしい。

委員

・　総合計画との関係やその違いを押さえた方が議論しやすいと思うので，第６次総合計画の概要版もあった方がよい。

事務局

・　会議の議事録と併せて資料を用意する。

委員

・　今回は初回であり，議論が抽象的になることはやむを得ない面があるが，回を重ねるごとに自然とテーマも絞られてくるため，この段階から意見を集約することにこだわる必要はないと考える。

会長

・　御意見のとおり，各委員の一つ一つの御意見が重要であることから，必ずしも一致させる必要はないと考える。

委員

・　委員それぞれが，どのような宇都宮市にしたいか御意見をお持ちだと思うので，委員同士で意見を交わすことも興味深い。

委員

・　大学卒業後に，本市に残る若者が少ないように感じているところであり，働く世代を宇都宮に取り込める取組があるとよいと思う。若者が，うつのみやで働き，かつ楽しく暮らしていけるようなまちづくりの方向性を示せるとよい。

委員

・　資料に記載のあるＳＤＧｓも，行政改革の新しい切り口としてはおもしろいと思ったが，政策的な分野になってしまうか。

事務局

・　現在のところ，庁内では政策部門が所管しているが，行政改革部門も一緒になって議論していきたい。

委員

・　当懇談会は初めての参加であったが，会議の顔ぶれを見ると，様々な分野の専門家が揃っていると改めて実感した。行政改革の範囲は広いので，各委員がそれぞれの専門分野から発言し，議論を深められるとよい。

副会長

・　まちづくりの分野まで議論を広げてしまうと，総合計画の議論となってしまう。行政改革大綱の上位に総合計画があるということを意識しながら議論を進めることも必要かもしれない。

６　その他

（事務局から，各種連絡）

事務局

・　次回の懇談会は，８月上旬の開催を検討している。

・　会議中に依頼のあった資料については，議事録と併せて送付するので確認いただきたい。

７　閉会

会長

・　今回が第１回目であったが，委員の皆様から多くの貴重な御意見をいただいたところであり，次回もそれぞれの立場から忌憚ない御意見をいただきたい。また，次回までに事務局から資料が送付されるとのことであり，事前に目を通していただけるとありがたい。

・　御多用の中，恐縮であるが，次回の懇談会出席についても，御協力をお願いしたい。

・　本日はありがとうございました。